

八代  
清水六兵衛展

 Takashimaya

**ROKUBEY  
KIYOMIZU**

ごあいさつ

このたび、高島屋では八代清水六兵衛先生の新作展を京都、東京、大阪の各店で開催させていただきます。

先生は1954年清水焼の名家 清水家の長男として生まれ、1979年に早稲田大学工学部建築学科を卒業後、京都府立陶工職業訓練校と京都市工業試験場で本格的に陶芸を学ばれ、2000年に八代清水六兵衛を襲名されました。

タタラ技法による構築的な作品は、一貫して作品の持つ空間性を追求され、焼成時の土の変化が釉薬の効果と呼応して、独特の陰影を作品そのものと周囲の空間に及ぼしています。

今展では、内壁軀体を残し、かつ大胆にカットを施しながら、内と外あるいは上と下の関係性から創造された空間構造を、オパールラスター釉や黒マット釉、鉄赤釉によって表現した造形作品を主に、オブジェ、花器、香炉、茶碗、蓋物など新作約50点を展覧いたします。

ぜひこの機会にご高覧賜りますようお願い申し上げます。

2015年秋

高島屋美術部

京都展=高島屋京都店 6階美術画廊 2015年9月9日(水)→9月15日(火)

東京展=高島屋日本橋店 6階美術画廊 2015年9月30日(水)→10月6日(火)

大阪展=高島屋大阪店 6階美術画廊 2015年10月21日(水)→10月27日(火)

※各会場とも最終日は午後4時閉場



1. 黒濁陶姿 27.0x27.0x40.5cm



輝白陶姿—雷神 40.5x42.5x39.0cm



3 黑渤陶姿—風神 38.5x44.5x38.5cm

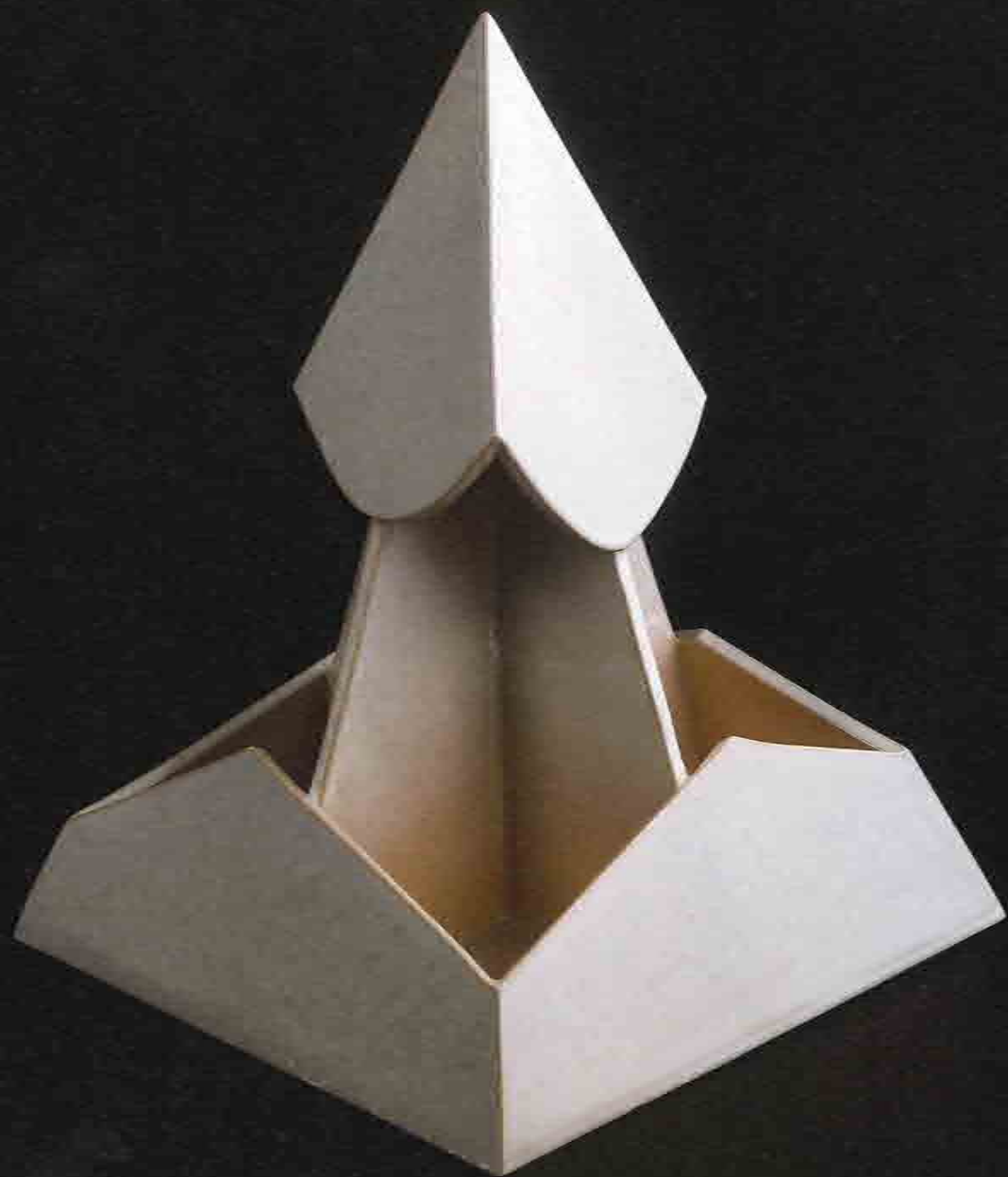


黑澗陶姿 45.0x51.5x45.0cm

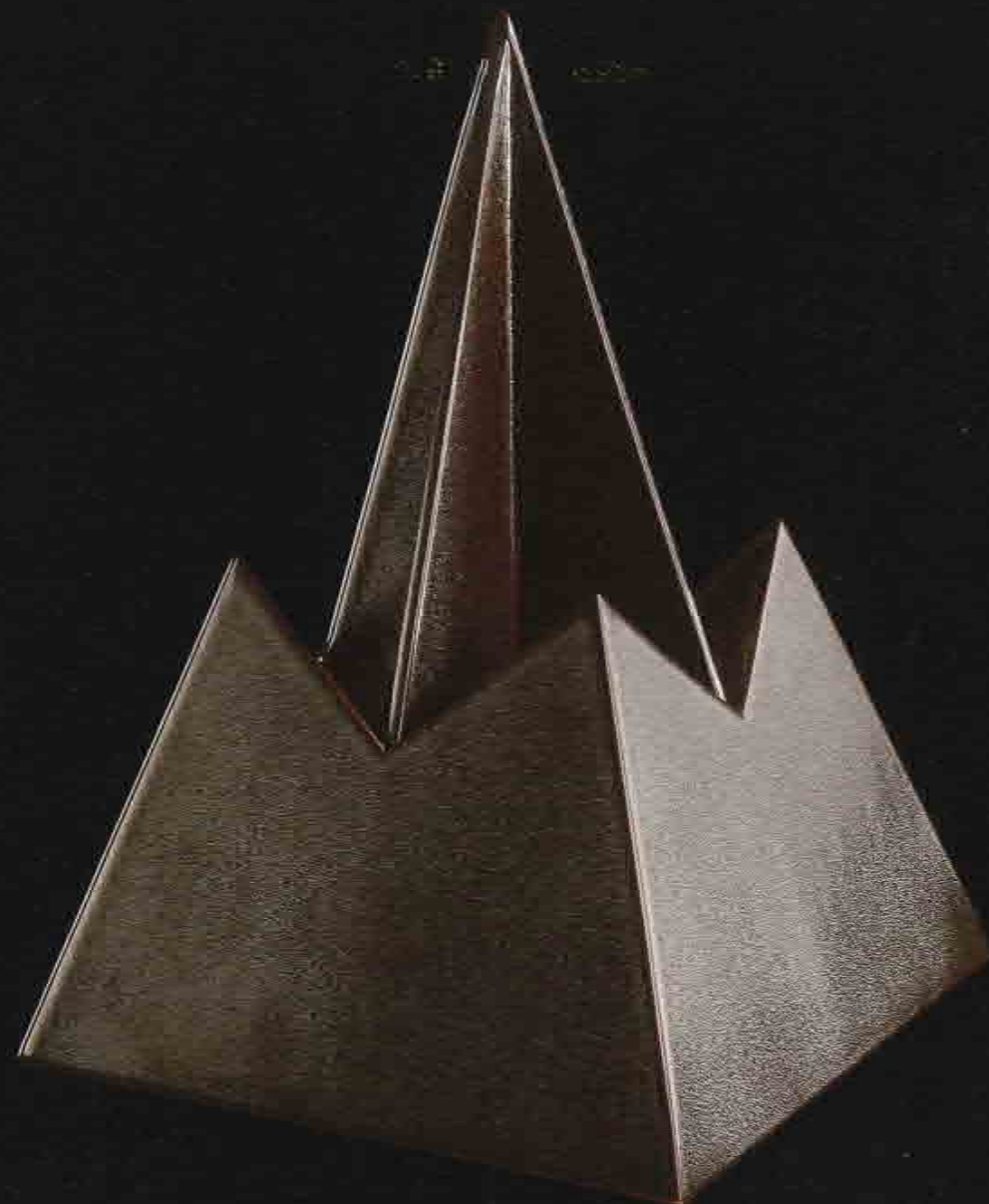


5 揮白陶姿 45.2x51.5x46.3cm





舞白陶姿 27.3x27.3x36.0cm



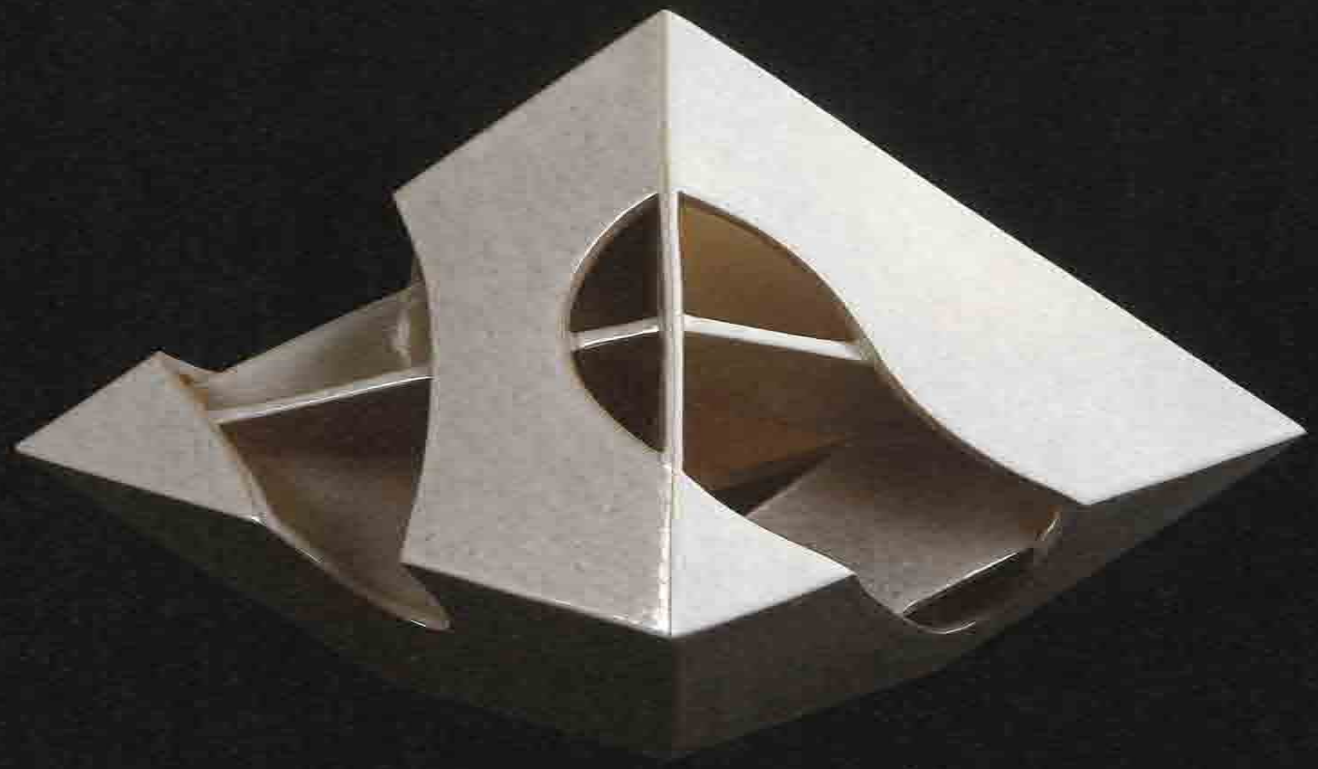
7 游变陶姿 26.7x26.7x37.0cm



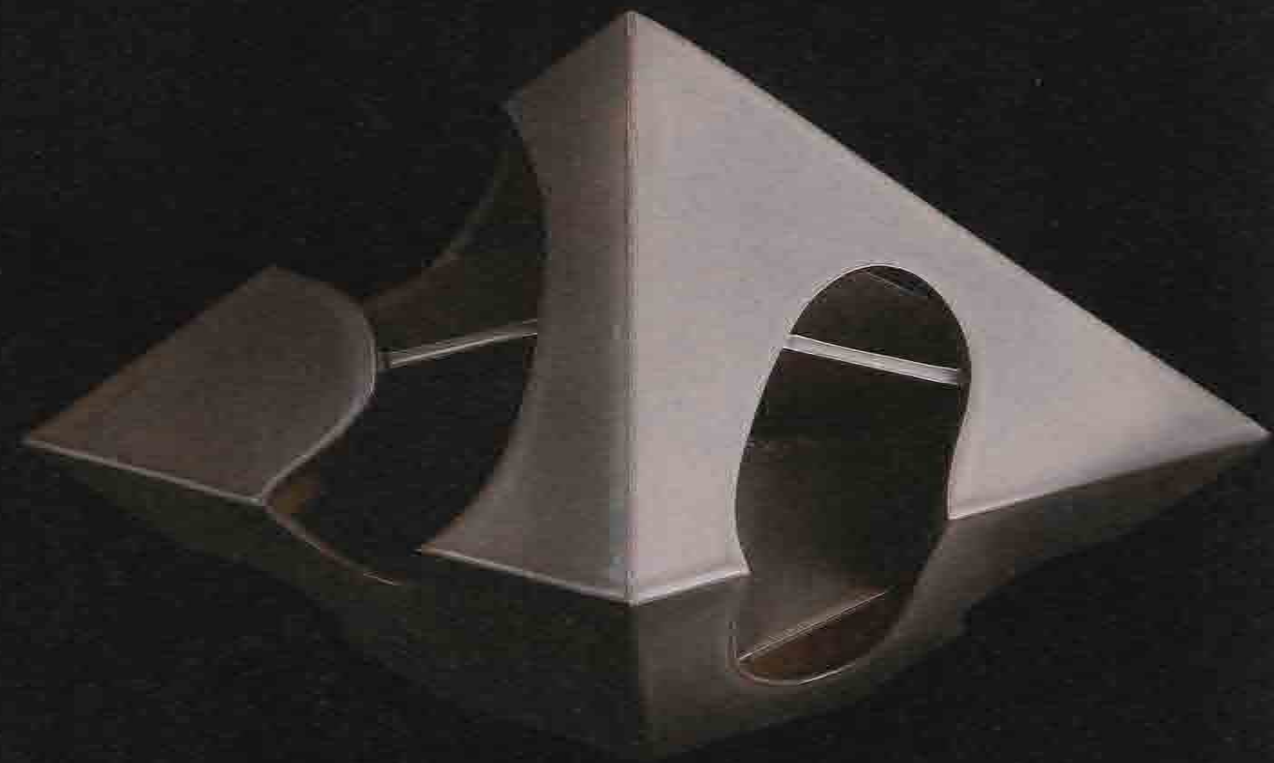
黑澗陶姿 37.6x44.0x39.0cm



9 輝白陶姿 39.0x39.0x36.0cm



輝白陶姿 45.3x31.7x25.0cm



11 黒濁陶姿 45.0x31.7x26.5cm



12 輝白陶姿 34.0x20.5x19.0cm  
13 黑渤陶姿 32.0x21.0x16.0cm



14 輝白陶姿 32.0x32.0x31.5cm





5 黒容立姿 32.0x37.0x35.0cm



16 赤容立姿 23.5x23.5x26.4cm



17 黒容立姿 23.5x23.5x26.8cm



18 赤容立姿 25.3x29.0x27.8cm



19 赤容立姿 27.3x27.3x26.8cm



20 輝白香炉 13.0x14.7x13.0cm  
21 輝白香炉 13.0x14.4x13.0cm  
22 輝白香炉 13.0x14.4x13.0cm



清水六兵衛を名乗るようになってから15年になりますが、2、3年おきに高島屋で個展を開かせていただいております。毎回、何らかの新しい局面を出そうと、基本であるタクラ成形を軸に考えてきました。私の作るものは構造が大きな柱になっていると思います。以前は面で構成された箱状の形の一部分を切り取っていくことでフォルムに変化をもたせ、焼成によって形が変化する点にウェイトを置いてきました。この方法から生まれる形は重力が生み出す自然なカーブが魅力だと思っています。

今回の作品は内側に直交する壁を取り付けました。このことで穴のあけ方も強度のことを気にせずに大胆にあげることができるようになったのと、内部に複雑な空間を生み出すことができました。

それから、もう一種類の作品は2年ほど前から始めた三方にヒントを得た器です。物が入る部分とそれを支える台の部分で構成されています。二つの要素の組み合わせで変化のある形が生まれたと思っています。

私にとって焼成はとても重要なプロセスだと認識していますが、同時に釉薬の持つ表情も関心の高いところです。多くは黒や白といった無機的な色彩ですが、表面の結晶や乳濁の効果が陶独自の魅力となっているのではないかと思います。

毎回、展覧会での作品を前にすると何か次の表現へのきっかけが見つかるのですが、そのことが次の発表につながればと思っています。

ご高覧いただければ幸いに存じます。

八代 清水六兵衛

八代 清水六兵衛 略歴

- 1954 京都市生まれ
- 1979 早稲田大学工学部建築学科 卒業
- 1983 朝日陶芸展'83 グランプリ受賞
- 1986 第14回中日国際陶芸展 外務大臣賞受賞  
朝日陶芸展'86 グランプリ受賞  
第1回国際陶磁器展 美濃'86
- 1988 京都市芸術新人賞受賞  
八木一夫賞'88現代陶芸展 優秀賞受賞
- 1989 秋山隆・清水征博・福本繁樹展  
(ABCギャラリー…大阪)  
八木一夫賞'89現代陶芸展 読売賞受賞  
第2回国際陶磁器展 美濃'89  
ユーロバリア'89日本「昭和の陶芸—伝統と革新」展  
(モンス市立美術館…ベルギー)
- 1990 陶芸の現在—京都から  
(高島屋…東京、横浜、大阪、京都)  
土の造形(栃木県立美術館)  
韓日青年陶芸作家交流展(錦湖美術館…ソウル)  
現代の陶芸(和歌山県立近代美術館)
- 1992 陶芸の現在—京都から  
(高島屋…東京、京都、大阪、横浜)  
第3回「次代を担う作家」展  
大賞受賞(京都府立文化芸術会館)
- 1993 京都府文化賞 奨励賞受賞  
現代の陶芸 1950-1990(愛知県美術館)  
第48回ファエンツァ国際陶芸展  
(ファエンツァ…イタリア)
- 1994 平安建都1200年記念 美術選抜展(京都市美術館)  
京都創作陶芸のながれ(京都文化博物館)  
クレイワーク(国立国際美術館)
- 1995 第49回ファエンツァ国際陶芸展  
(ファエンツァ…イタリア)
- 1996 写来再見(国際交流フォーラム…東京)  
IAC'96 JAPAN 国際陶芸アカデミー会員展  
(佐賀県立美術館)
- 1997 SIDNEY MYER FUND INTERNATIONAL  
CERAMICS AWARD (シェパートン アート ギャラリー…  
オーストラリア) Poyntzpass Pioneers Ceramics Award受賞

- 1998 陶芸の現在的造形(リアス・アーク美術館…気仙沼)  
滋賀県立陶芸の森創作研修館(信楽)にて制作
- 1999 タカシマヤ美術賞受賞  
なんてき・れ・い なんて不思議—釉薬の表現と陶  
芸美—(滋賀県立陶芸の森陶芸館…信楽)  
日本現代陶芸展—前衛の動向(ファン・ボンメル・  
ファン・ダン・フェンロ市立美術館…オランダ)
- 2000 八代 清水六兵衛を襲名
- 2001 現代陶芸の精鋭(茨城県陶芸美術館…笠間)  
京都の工芸[1945-2000](京都国立近代美術館2002・  
東京国立近代美術館工芸館)
- 2002 国際現代陶芸招待展(台北縣立鶯歌陶磁博物館…台湾)  
現代陶芸100年展(岐阜県現代陶芸美術館…多治見)
- 2003 韓日陶芸作家交流展2003(ギャラリー サガン…ソウル)  
現代韓日陶芸展—共生をめざして—(錦湖美術館・  
錦湖アートギャラリー…ソウル)
- 2004 カイロスの時・空・間(瀬戸市新世紀工芸館…瀬戸)  
国際交流選講展(中国美術館…北京)  
清水六兵衛歴代展(千葉市美術館)
- 2005 日本陶磁協会賞受賞  
疎通・拡散—韓・中・日 国際陶芸展(ミラル美術館  
…ソウル)
- 2006 CERAMICS beyond borders (National Library  
…シンガポール)
- 2007 第22回現代日本彫刻展'07(宇部市野外彫刻美術館  
…山口県宇部)
- 2009 京都府文化賞 功労賞受賞  
第4回パラミタ陶芸大賞展(パラミタミュージアム  
…三重)
- 2010 IAC会員展(セーブル国立陶磁美術館…パリ)
- 2012 梅原猛と10人のアーティスト(高島屋…京都、東京、  
大阪、名古屋、横浜)  
アジア現代陶芸—新世代の交感展(台北市立鶯歌陶磁  
博物館…台湾)
- 2013 清水六兵衛家—京の華やぎ—(愛知県陶磁資料館)  
京都美術文化賞受賞
- 2015 The Blending and Interaction of Civilizations :  
An Exhibition of East-West Dialogue in Ceramic Art  
(中国美術館…北京)

【パブリックコレクション】

- 東京国立近代美術館
- 国立国際美術館
- 国際交流基金
- 京都府
- 京都市美術館
- 和歌山県立近代美術館
- 滋賀県陶芸の森
- 高松市美術館
- 岐阜県現代陶芸美術館
- 茨城県陶芸美術館
- 京都迎賓館
- 佐久市立近代美術館
- エバーソン美術館(アメリカ)
- 大英博物館(イギリス)
- 台北市立美術館(台湾)
- プラハ装飾美術館(チェコ)
- 王立オンタリオ美術館(カナダ)
- シェパートン アート ギャラリー  
(オーストラリア)
- セーブル国立陶磁美術館(フランス)
- ケラミオン美術館(ドイツ)
- ペナーキ美術館(ギリシャ)
- 中国美術館(中国)

現在  
京都造形芸術大学教授  
国際陶芸アカデミー(IAC)会員